

高速・ロングオリエンテーリング

木村佳司

第40回全日本オリエンテーリング大会 2014年4月27日 長野県菅平高原

菅平高原

Sugadaira Plateau

長野県上田市・須坂市



第40回全日本オリエンテーリング大会
2014(平成26)年4月27日(日)

緊急時連絡先: 木村 090-3333-0893

縮尺 1:15,000
Scale
等高線間隔 5m
Contour Interval



R1
R2
R3



M21E-1		10 53		11 57		12 58		13 59		14 53		15 54		16 55		17 56		18 53		19 62		20 67		21 70	
1-1	12.7 km	530 m	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
1	45	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
2	42	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
3	40	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
4	37	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
5	34	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
6	31	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
7	41	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
8	48	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	
9	51	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	



調査原簿 『日本オリエント』 2002年長野県オリエンテーリング協会作成
『中央標準』 1996年(以経緯度改正) 国土地理院
調査作図 2013年5月~2014年4月
長野県オリエンテーリング協会
(株)ヤマカワオリエンタープライズ 山川 充則
Trimble社 DGPS採用 License No. 1995
2014年4月
協力 長野県産業振興局
オリエント競技部
菅平高原オリエンテーリングクラブ

長野県オリエンテーリング協会

男子選手権クラスM21Eのコース図。コースの途中がバタフライループとなっている。距離は12.7kmになるが、これでも当初予定距離より大会直前に1km短縮されている。



女子優勝の加納尚子(朱雀OK)
フィニッシュに向けて斜面を下る。

第40回全日本オリエンテーリング大会 2014年4月27日 長野県菅平高原

M21E(男子選手権)12.7km ↑530m

1	結城克哉	1:18:24	トータス
2	小泉成行	1:19:50	オー・サポート
3	松澤俊行	1:23:16	浜松市
4	池陽平	1:26:54	京葉 OLC
5	円井基史	1:27:02	金沢工大
6	櫻本信一郎	1:27:07	京葉 OLC

W21E(女子選手権)9.2km ↑260m

1	加納尚子	1:07:18	朱雀 OK
2	稲毛日菜子	1:08:26	東大 OLC
3	宮川早穂	1:11:25	東大 OLC
4	渡辺円香	1:15:07	ES 関東 C
5	千明瑞希	1:15:56	
6	伊東瑠実子	1:16:22	東大 OLC

M20E(男子ジュニア選手権)9.2km ↑260m

1	稲森 剛	0:55:59	東海高校
2	長谷川 望	0:56:11	東海高校

3	五百倉大輔	0:58:25	京大 OLC
4	祐谷大輝	0:58:43	東大 OLC
5	糸井川壮大	1:00:57	京大 OLC
6	深田 恒	1:01:04	東大 OLC

W20E(女子ジュニア選手権)5.8km ↑160m

1	五味あずさ	0:47:58	金大 OLC
2	砂田莉紗	0:56:01	KOLC
3	山岸夏希	0:56:41	公文国際学園
4	宮本和奏	0:56:51	京葉 OLC
5	小野澤清楓	0:59:06	群馬大学
6	木村史依	1:00:53	金大 OLC

男子は結城が二連覇

第40回の全日本大会は結城が2連覇を果たした。全日本大会男子を連覇した選手は少なく、遠藤・村越に続いて3人目だ。上位を見ると、結城以外はベテラン選手が多い。今回の全日本大会のコース難易度は高いとは言えなかったただけにもっと若者が活躍するかと思いきや、意外な結果だ。



男子優勝の結城克哉（トータス）

加納・ロングで初優勝

女子選手権は学生選手が追いつける中、大ベテランとも言える加納尚子が逃げ切った。加納は2013年のスプリント日本選手権でも優勝しており、これで2冠となった。加納はMTBO（マウンテンバイク・オリエンテーリング）にも取り組んでおり、総合的な体力強化が功を奏したのかもしれない。

男子ジュニア・高校生が制する

男子ジュニアでは、並み居る大学生選手を抑えて東海高校の稲森剛と長谷川望がワン・ツーフィニッシュを飾った。ここ最近では大学生が優勝することが殆どだった全日本大会の男子ジュニアクラスで、これは高校生の快挙である。

女子ジュニア・五味あずさ2冠

金沢大学の五味が圧倒的な速さを見せた。五味は全日本ミドルとあわせて女子ジュニア二冠となった。



男子ジュニア優勝稲森 剛（東海高校）

6分/kmのレース

今回のレースは高速レースとなった。男子選手権トップの結城は12.7kmで78分で走っている。6分/kmのペースである。女子選手権トップは7分/kmのペースである。これは日本の山林を舞台としたオリエンテーリングでは飛びぬけて速いペースだ。参考までに2013年3月に福井県で行われた全日本大会の男子選手権の優勝は9.8分/kmだった。

芝のグラウンドを走るよう

高速レースとなった理由はいくつかある。

- ・トレインの走行可能性が良い
- ・登りが比較的少ない
- ・コースが簡単だった

トレインの多くが牧場やスキーのオープンやセミオープンだ。雪解け直後のこの季節は、下生えもなく、とても走りやすい。まるで芝生の上を走っているかのような走りやすさだ。視界も素晴らしく良好である。このためナビゲーションの難易度が下がり、全速力ナビゲーションが可能な状況だった。

課題もあった

最高の天気にも恵まれた全日本大会だったが、順調に競技が行われたわけではなかった。M21EとM21Aのコースで使用された範囲の一部には地図が不正確な部分があり、これにより競技に影響を受けた選手が何人か出てしまった。

選手にとっては自分の選んだルートが競技の全てであり、その地図が不正確だったということは受け入れがたい事だ。

積雪の多い地域の春は、トレインの季節変化が激しい。今回もこうした季節変化に対応し、参加者の安全を優先して、大会4日前にコース短縮を行った。その結果、調査が不十分な範囲を通るルートもランナーの選択肢になってしまっていた。

コース変更による影響度が検証しきれなかったことが直接の原因だが、こうした場所で全日本大会を行うことの限界も見えた大会となった。

(木村佳司)



女子ジュニア優勝 五味あずさ（金沢大学）
フィニッシュ直前に靴が脱げたようだ。そのまま手に持ってフィニッシュ。芝生のような地表だったからできたこととはいえ、勝負への執念が垣間見えた。